

事業所名: 児童デイサービス さんこま(児童発達支援)

公表日: 2026年3月27日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	小人数制を基本とし、古民家と野外空間を活用した分散的な環境づくりを実施。	室内や屋内の設備(運動遊具など)について、子どもの特性に合わせて更新していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	基準の人員以上のスタッフを配置し、手厚い関わりを実現。	より支援が必要な子に対して、スタッフの関わりを厚くするなどの柔軟な体制の調整を行う。それぞれの専門性を高めより質の高い支援を目指す。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	子どもが主体的に活動に取り組むことができるように環境を整備しています。補助具や段差の手作業対応も工夫。	古民家特有の構造でバリアフリー化に限界。車椅子対応に継続的課題あり。設備で対応できていない部分については、スタッフがサポートして対応。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	日々の清掃や木の香り、自然素材の活用で温もりある空間を維持。	気候による湿度・寒さなどの調整が必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	馬小屋や畑、裏山など「ひとりで過ごせる場所」を複数確保。	安心して個室的に過ごせる屋内空間の整備(小スペース)も今後の課題。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	振り返りミーティング・記録による職員間共有で改善を促進。	職員の記録・分析に負担あり。効率的なツール導入を検討する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	年1回の評価に加え、電子メール・LINEなどで保護者の声を集約・反映。	アンケート回答率のばらつきや記録整理の負担あり。年1回の評価では、すくいきれないニーズの把握が課題
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	対話重視のミーティングでアイデアや気づきを即時共有。	書面化・記録の形式化が十分ではなく、継続的な見える化が課題。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0	外部専門家を招いてプログラム質向上につながる研修会や勉強会を実施。その際に、当事業所に対する助言をもらい、業務の改善につなげている。	外部評価者との継続的連携が難しく、関係性の維持と新規開拓が必要。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	馬や感覚統合に関する勉強会、外部の研修参加も積極的に実施。	専門性に応じた研修内容の体系化が不十分。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	事業所の理念に基づいた支援プログラムを策定し、対外的にも共有。	定期的な見直しや文書化の作業負担があり、スタッフ内での共有強化が必要。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	日々の観察や関わりをもとに非形式的アセスメントを重視。保護者との面談も反映。	標準化ツールとの併用や記録フォーマットの整備が今後の課題。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	ミーティングで日常の関わりから得られた情報をもとに、職員全体で計画に反映。	多忙な中での共有時間の確保が難しく、効率的な共有体制の強化が必要。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	支援計画は全員で確認し、具体的な支援行動に落とし込むことを徹底。	計画と日々の実践を結びつける記録整理の方法を確立する必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	フォーマルなアセスメントは実施していないが、日々の活動観察を通して、子どもの小さな変化を感覚レベルから捉える支援を重視。	フォーマルな評価ツールの導入・活用の余地があり、バランスが課題。

事業所名: 児童デイサービス さんこま(児童発達支援)

公表日: 2026年3月27日

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点など	
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	「本人・家族・移行・地域」すべての視点を取り入れ、馬との暮らしに組み込んだ形で支援内容を設計。	項目ごとの明確な文書化に改善の余地有り。ガイドライン項目との照合が必要。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	支援スタッフ全員で活動内容を日々検討し、子どもの状態や関心に応じて柔軟に計画。	計画の細部の記録化がされづらく、振り返り資料として残りにくい。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	季節・天候・子どもの声に応じて日々プログラムを変化させる柔軟性を重視。	柔軟さゆえの属人的な対応になりやすく、意図や目的の連続性が課題。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	小集団の中で個別のペースを尊重しつつ、協働作業など自然なかたちで集団活動も提供。	記録上、個別支援と集団支援の目的や成果の明確な整理が難しい場面も。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	活動開始前に、その日の予定・子どもの状態・役割分担をスタッフ間で確認。	突発的な対応が多く、事前打合せが簡易的になることがある。記録に残す工夫が必要。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	活動後にその日の様子や気づきを音声・対話で共有する文化を重視。	忙しさで振り返りが後回しになることもあり、記録や可視化の強化が必要。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	職員が自由記述で感覚や気づきを書き込める項目がある記録方式を採用。	自由形式のため様々な場面での成長や変化が捉えられているがその一方、支援計画やモニタリングへの記録の反映が難しい。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	支援経過の中で定期的に成長を言語化し、保護者との共有も実施。	記録整理と時系列での成長把握に時間がかかる。デジタルツール導入を模索中。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	必要に応じて支援に詳しい職員が会議に参加し、丁寧に伝達している。	対象児によって開催頻度や情報共有のスタイルに差があり、対応に工夫が必要。
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	学校・園・医療機関と連携して支援会議や情報共有を行っている。	定期的な連絡調整の負担が大きく、役割分担や効率化が求められる場面あり。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	保育園・こども園等との併行利用があり、情報共有に配慮をしている。	定期的な連携体制の構築が難しく、インクルージョン支援の枠組みづくりが課題。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	保護者・学校との事前面談や連携でスムーズな移行支援を実施。	就学先の体制によって情報伝達のスタイルが異なり、対応が個別化しやすい。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	0	0	該当外	該当外
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	0	0	該当外	該当外
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加しているか。	0	0	該当外	該当外
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	0	本地域には、児童発達支援センターは設置されていないが、必要に応じて専門機関と連携し、ケースに応じた相談や支援調整を実施。	児童発達支援センターが無い場合、関連機関との日常的な関係構築が課題であり、連携機会を継続的に持つ工夫が必要。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	近隣にそれらの施設がないため、交流の機会はないが、イベントなどを通じて、他のこどもの交流の機会を設ける。	定期的な交流の企画の設定が今後の課題。

事業所名: 児童デイサービス さんこま(児童発達支援)

公表日: 2026年3月27日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点など
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	文章や音声、写真などを活用し、日々の姿を感情や背景とともに共有。	情報が口頭・感覚的になりやすく、伝達内容の整理や記録化の工夫が必要。
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	障がい児支援に関する勉強会などを開催し、子ども支援に関する共通認識を持ってもらい、子どもに寄り添った環境調整や関わり方などをスタッフと共に模索する中で、対応力の向上を図る。	ペアレント・トレーニングなど体系的なプログラムとしての整備は未着手。
保護者への説明責任等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	初回利用時にパンフレットや対面説明を通じて丁寧に案内。負担額や契約内容の確認も実施。	利用後の説明が不足しがちで、継続利用中の再確認の仕組みが必要。
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	面談や活動中の対話を通して、本人や保護者の思いを丁寧にすくい上げている。	子ども本人の意志表出への配慮や言語化の機会づくりをさらに工夫したい。
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0	書面・口頭で支援計画の説明を行い、内容を確認のうえ同意書を取得。	計画内容が抽象的になりがちで、具体的なイメージを共有する工夫が必要。
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	保護者の気持ちや悩みに耳を傾け、活動の様子と照らし合わせながら面談を実施。メールやLINEなどのツールも組み合わせながら助言・支援を行う。	面談頻度や記録の標準化が課題。家族発信ではない、アウトリーチ的な支援の方法を検討。
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	0	親子で参加できる様々なイベントや子どもとの関わり方を学ぶ勉強会において保護者同士の交流を図る。別々に来訪した保護者の方がゆったりと時間を過ごして、自然と会話が生まれるような場を設定。きょうだいも参加できるイベントも開催。	保護者会や父母交流のような定例の仕組みづくりは未着手。今後のテーマ。
	40 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	担当者を決めて迅速に対応できるよう意識し、メール・LINEなどを活用。	申入れ・相談の記録整理やフィードバック方法が明文化されておらず改善余地あり。
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0	音声連絡帳、LINE、写真共有などを通して、活動の雰囲気や子どもの姿を保護者に伝達。通信も定期発行。	定期的な通信やHP更新が不足しており、継続的な発信体制の構築が課題。
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	写真・音声の使用に関して保護者の同意を取得し、適切に管理・制限。	状況の変化に応じた写真、音声記録の扱いプライバシー保護に関するルールの再整備が今後必要。
	43 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	子どもが安心して伝えられるよう、非言語的表現や関係性構築を重視した支援。	発語が困難な子への代替手段(AAC等)の導入はこれからの課題。
44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0	畑仕事やイベント開催など、地域の方との協働や行事参加を推進。	定期的な「公開行事」や地域参加の見える化など広報面の工夫が必要。	
非常時等の対	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	感染症・事故対応など基本的なマニュアルは整備済み。実地対応は職員間で共有。	防災・避難などの定期訓練の実施を重ねることで、迅速な対応を目指す。

事業所名: 児童デイサービス さんこま(児童発達支援)

公表日: 2026年3月27日

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点など
応	46 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	BCPは策定済み。大雪・停電時の備蓄や対応マニュアルの見直しも行って	年1回以上の訓練実施や新スタッフへの引継ぎ共有体制が課題。非常時に対応できる備品・設備の整備も今後検討。
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	利用開始時に健康情報を詳しく聴取し、必要時は追加確認・共有を行っている。	情報更新の定期確認がやや不足。年1回以上の見直し体制を検討中。
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	医師の指示のケースは無いが、保護者の要望に基づき、食事・環境に配慮した個別対応を徹底。	イベント時などイレギュラー時の対応手順を明文化し、再確認が必要。
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	支援中の安全管理について日々の活動から意識づけ。危険予知も共有。	安全計画の更新、ブラッシュアップの方法については、今後の検討課題。
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	保護者との連携で、送迎や活動中の安全確保への情報共有を丁寧に実施。	安全計画を定期的に説明する体制づくりが必要。
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	職員間で口頭・組織内情報システム等を通じて即時共有し、再発防止策を検討する文化あり。記録にも残し、情報を蓄積している。	記録化・分析・改善策の振り返りを定例化するしくみが今後の課題。
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	定期的な研修、話し合いを実施。倫理や子どもの権利を意識した支援が文化として定着。	外部研修も検討中。
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0	拘束は一切行わず、事前に「行わない」方針を保護者に明示している。	万々に備えた説明文書や事例対応フローの整備が今後の課題。